

表紙, 目次, 通信, 雑報

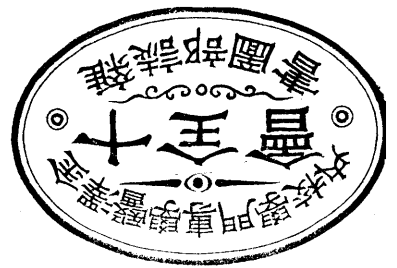
メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/2297/38188

大正三年四月一日發行

十全會雜誌

全澤醫學專門學校十全會

第九十卷
第四號
(第九十九號)



十全會雜誌(第十九卷第四號)目次

○原著及實驗

●胃醱酵素及び其臨牀的意義。

金澤醫學專門學校佐々木内科ニ於テ

近藤清吾

●初生兒子宮出血ノ二例。

丹後國宮津病院婦人科

太田垣道夫

○通信

●印度洋を横きる記、塚本政治氏通信。

●岡部忠清氏通信。

●宮田教授通信。

●岡本京太郎氏通信。

●四十一年度卒業生諸君へ。

○校内雜報

●記念館設立。

●福士教授を迎ふ。

●宮田教授送別會。

●加藤博士學

位受領祝賀會。●金澤病院醫事集談會。●圖書月報。●第一回十全會圖書室雜誌抄讀會。

○叙任及辭令

●石川縣。

○人事

●宮田教授ノ宿所。嶋田吉三郎氏ノ宿所。●自宅開業。●轉居會員。

●居所不明會員。

○會告

●校外特別會員會費納付調書。

○廣告

●石川教授へ贈呈記念品釀金受領報告。



○ 第三回大日本醫學會演説集

以下略ス

通信

● 印度洋を横ぎる記 (續き)

塚本政治

九月五日午後三時彼南出發の筈なりしも本船に積むべき荷物遽に増加せしため出發を延期し午後五時頃拔錨す本船の當港出口に郵船會社のカルカッタ航路に従事し居る土佐丸(六千噸)の碇泊し船尾に日章旗の飄へるを見一種の快感を覺ゆ船員の談には日清戰爭時には本邦にては最大の商船なりしと我船は主として西南に向ひて進行し左舷に鬱蒼たる耶子樹の森林を以て覆はれたるスマトラ島を望む。

九月六日午前は風靜かにして海上平穩正午本船の位置は北緯五度三十三分東經九十六度十五分自神戸三千六百九十六哩至マルセイユ六千三十七哩なり午後三時頃より西風強く船の動搖も稍著しく多少船暈氣味あり晩食に三皿位にて食堂を出て甲板上面にて夜遅くまで長椅子の上に眠る。

九月七日風止まず益強く船の動搖も甚だしく起床洗面時に既に船暈を感じ朝食前の茶をも口にする能はず椅子の上に仰臥せしも朝食の鐘鳴耳に達し詮方なく食堂に入れば船客皆顔面蒼白にして無言を持し唯默禮苦笑するのみ予も唯一皿を口にして勿々として甲板上に出づ衆皆相踵へて來り前途

の航海思へやらるる弱音を吐く心細き事限りなし正午には食堂に出でしも東洋人にては予のみ其も唯云へ理位にして『スープ』一皿を平らげしのみにて食堂を出す他の連中は『カビン』内に食せり同船者毛頭八名あり(三井の新造船松浦丸「六千噸」をロンドンより荷載初航海の途香港へ入港の際暗礁に乗り上げ沈没せしめ平然たる厚顔無耻の連中)平然として食堂内に談笑の下に食を喫するを見瘡にさわるも一方ならず予は如何に船暈に苦しむも毎食時必ず食堂に出づ可きを心に期せり此瘡我慢何時迄續くや晩食にも食堂に出づ二皿を平らげ直に『カビン』内に入り他の同船室者と共に給仕に『ボーダセスケット』を命じ其を口にし兼て準備の『ウエロナール』を頓服して寢に就く。

予は先年在京中房州へ友人と共に遊びし時歸途暴風雨に遇へ船客は勿論船員迄船暈に悩まされしきに予も苦しさの餘り種々体位を研究せし結果右側臥にて時々深呼吸をせば惡氣は著しく輕快し眩暈も多少緩解せるを以て本日も予自ら且他の同病者にも應用せしに稍効果あるを経験す。

九月八日六時起床波も多少靜かとなり元氣大に快復し朝食前には著しき不快なく三皿を平らげ甲板上に出で椅子の上に仰臥のまゝ一昨日來の日誌を認む他の船客も多少馴れし爲か晝食時には食堂に黄色人種も其三分の二姿を顯す晩食には主廚の厚意により邦地產の米飯に豆腐の味噌汁鯛の鹽焼鯛鮪の刺身邦地にても尙珍らしき青き莢豆の鹽煮奈良漬の日本料理にて一昨日來の船暈も消へ失せ數椀を平らげ甲板上に出で各自得意の詩歌謡曲を吟り昨晚に比し雲泥の差あり。

九月九日快晴海上平穩本船の西に向ひて進行するのみにして一昨々日來見渡す限り印度洋の水茫茫として際涯なく眼を遮るものにて二三回他の汽船と邂逅するのみなり斯る時は衆皆相集りて船形を評し何國の船なるかを語り合ひ船員に其判決を乞ひ其形を失ふまで見送りぬ靜穩なる海上を眺めば飛魚らしき羽翼を具へたる小魚が船の馳せ來るに驚きて群をなして水

面上を飛び去る様興味あり時に巨大なる動物の時々頭を擧げて遊び行くを見るもあり然れども斯る海上にて最も壯麗にして愉快なるものは日の出及び日没の景色なり夜間蒸暑き『ベット』にありて快き夢を結ぶを得ず快々たるのとき枕を蹴りて起き出で東天を眺むれば紅を呈し須臾にして地平線上に皿の如き深紅の球の徐々に登り来る様又退屈なる一日を漸く送り過したるさき夕陽の西天に春づき紅白雜色の異様な雲を以て飾られたる壯觀は陸上にては稀に見る所なり夜に入れば涼風頻りに來り單衣一着にては涼に過ぐる程なるも『ベット』に入れば退屈を覺ゆるを以て夜更くる迄甲板上面にて長椅子に仰臥し頤を解かしむる如き滑稽或は故郷にての珍談等にて華を咲かし九時頃『デツキパツセンデアー』『甲板旅客の狀況を見む爲に友人と共に船首へ赴く此旅客は出稼の印度黑人數十人歸國の爲めシンガポール、ビナンよりコロンボまで乗船せり此等は船室を興へられず常に船首の甲板上にありて夜は毛布蓆等を敷きて其儘横臥するなり(食事も材料を準備して乗込み自ら調理して食す故に乗船賃も大に廉なり)予等行きしとき或は蓆の上に眠るあり或は甲板に殆んど赤裸々に横臥せる黑人ありて將に之に躓かんとせしとあり或は『ハンモック』に乗りて眠るあり千種万別の狀實に異様に感ぜられたり。

九月十日午前六時はコロンボに到着す當港はセイロン島の西岸にある港なるも自然的に灣形をなさず印度洋の怒濤船舶の碇泊を許さざるを以て英國政府は築港をなし『コンクリート』を以て海中に長さ數千尺の防波堤(二千万磅邦貨にては約二億圓を費せるを)を築き其中に八十艘の大船を容るるに足らしむ午後一時三十分予は同船者二名と共に上陸し馬車を賃して當地の博物館に至り觀るセイロン島の土人即『シンガリー』人の風俗習慣裝飾品本島に産する動植物等を陳列す就中巨大なる象鯨の骨海馬毒蛇の剝製美麗なる蝶其他の昆蟲等予等の嘗て其名を聞きしも未だ實物を見ざりしもの多かりし其説明の方法至極簡明にして例へば動物の産地を示すには小地

圖を添へ産地だけ赤く染めたる如し然し時間少きを以て倉皇辭し去り復馬車に乗り行くと約一時間にして大なる佛教寺院に至り馬車を下りて寺に至る途中黑人の小供數人追従し來り『旦那せん』と下せし』と呼び或は案内せんて之れば椰子樹なりなど喋々し五月蠅き事限りなし寺の境内に四角にして戸なく内部の壁に沿ふて机を備へたる四阿の大なる如き家あり門に『スクール』と出しあり僧侶の教授する貧民學校ならん寺は稍大なれども大に見るべきものなく四圍の廊下を巡りて見れば壁に地獄と極樂との圖を畫きたるあり其中には釋迦の大なる臥像あり其眼珠の直徑約四寸あり其黒玉は『ルビー』を以て造れり云ふ其兩側に釋迦の立像及坐像を安置す寺の上方一段高き所に『ダゴバ』と稱し大なる球形の塔あり此等の寺院を一覽の後馬車にて歸途に就き途中印度の寺『マホメット』教寺及其附屬の學校を見物し某市場に立寄り菓物の王と稱する『マングステン』を買ふ此菓物は鵝卵大にして皮を剥げば食す可き部分は純白色にして僅に酸味を帶ぶる甘味を味ひ其形は邦地の蜜柑を皮剥ぎたる如し予等の口に王と稱す可き程甘く味ふ能はず五時三十分『ランチ』にて本船に歸る。

九月十一日午前六時半同船者三名と共に上陸し直に乘換へなき電車にて約五分間マラダナ停車場に行き七時四十五分コロンボ發佛教の聖地たるの故を以て有名なるカンデー行の汽車に乗る此行は予等始め今迄の経験により案内者なくして遠征を企てんとせるも事務長は多少大膽過ぎるを警戒せるを以て厚意を無にする能はず且此の言に多少恐れを抱きし爲め一切の費用を含みて一人一磅(約十圓)の約束にて案内者を傭ひたり汽車三時半の途中に車窓より最も多く見たるものは椰子樹周圍尺餘に及ぶ綿樹牛黑人の四なり稻を植へたる耕地は極めて少なく椰子多き小山が或は牛數頭のさまよへる沼澤最も多く又水牛の小川に沈み頭のみを出せるもの多きを見たり唯稀に護謨樹を栽培せる丘を見る稻は秋を蒔きたる後其の儘打ちやり肥料を施すもなく草を除く事なく全く自然に放任するとなれば我國にて見る如

く長く稔る事なし而も一年に三回の收穫ある由にて予の見たる時刻りつゝあるあり未だ幼苗なるあり又中頃なるあり一般に農業は極めて幼稚の有様にあるが如しコロンボよりカンヂーに至るは時間其他の模様にて東京より日光に至るは相似たり唯カンヂーは海面上千八百呎以上の高所にあるが故に途中ランボック驛より前後に汽關車を附けて登る事及びカンヂー寺院は日光は壯麗ならざるの差あり予等は十一時五分カンヂーに着し直に馬車に乗り約五分間程にして一の『ホテル』に導かれて晝食して直に寺院に参詣す予等はコロンボより案内者を連れ來れるにも拘らず此地の案内者來りて達者なる英語にて頻りに説明す此寺院は五六百年の昔建造せるものにして釋迦の齒一枚を納めたるの故を以て佛教の聖地として有名なり然れども門戸を開きて衆人に示すは一年一回にして特に多額の金玉を奉納するものには隨時之れを示すと云ふ予等は勿論之れを觀るを得ず唯其周圍を巡りたるのみ其壁には同じく地獄極樂の畫を見たり又金泥を塗れる球塔ありて案内者は其下に釋迦の齒を埋めたりと云へり次に經藏に入り見れば木葉に書したる印度語の經文數十卷を藏す予は此の經文を更に木葉に寫したるを一葉購求せり此堂には最後のカンヂー王英國皇帝の畫像等を掲げ又日本の皇帝皇后兩陛下と書せる先帝陛下及皇太后陛下の石版摺の御肖像を掲ぐ予何れより得たるかを問へば日本の或人より贈り越せりと云へり此堂にて相當の寄附を強請せるを以て賽錢を與ふ。

寺院を去らんとすれば我國の寺院に於けると同じく盲跛等の不具者多く附き纏ひ來りて錢を求む門を出んとする所に佛教會の設立せる學校ありしも時間に餘裕なかりし爲め參觀せず直に馬車にて當地の植物園に至る途に數名の僧侶街上を歩行するに逢ふ頭は圓顯裸体の上に黄色の法衣を纏ひ跣足にして日本に於て見る佛畫像と全く同様なり予謂へらく昔時我國にて佛教の隆盛なりと云ふ空海を始め其他の僧侶の印度に留學するも恰も今日歐米に留學するが如く此等の留學僧侶は此地の邊をも徘徊せしむならん其當

時は汽車の便なく徒步して此の千八百呎の高所に登りしならんと思へば其苦行の程察せらるる空海上人の歸朝して高野山に本山を置き眞言宗の一派を開きたるが如き或は此地を摸したるには非らざるかなど空想に耽りたり。

當地の植物園は新嘉坡彼南の植物園と大差なきも種々の新奇なるものに藥品の原料となる『コカイン』『木』『バナマ』『絹の材料たる』『バナマ』『草等を見たり午後一時四十五分ベラデニア驛(カンヂー驛の次ぎの一驛)にて汽車に乗り五時二十分頃マラダナ驛に歸り六時『ランヂ』にて本船に歸る此行程往復約百八十哩なり謂へらく案内料一磅は大に高價なる案内賃にして實費は其六七割にて足れり此案内者は英語は勿論日本語も少しは解し正直なりとて以前に儲ひたる日本人十數名の紹介狀を有し之れを示して信用を得以上の條件にて約束するを常とす然し斯く萬事を托し已れば殷懃然たるは氣樂は氣樂なるも大に不利益なる西洋人の決してなさざる所にして此英語にて萬事用をなし得るを以て停車場電車馬車等に關し毫も心配なきを以て案内者の必要を認めず唯寺院へ参詣のとき多數の案内者乞人集來り圖々しく執着して強請するに閉口す。

コロンボは青玉、紅玉、黃玉等の產地なれば此等の寶石を入れたる指輪鎖襟止等を船に持ち來りて買ふを勸むる黑人夥し然れども多くは皆他の船中商人の如く三四倍以上の掛値を言ふを常とし又は寶石に非ざる硝子等を持參し偽りて賣り付くるもの多しと此地に於て多數の寶石商人は我邦人の此商人は信用して購ひ得る由を記入したる紹介狀を所持して予等に示せしも容易に信す可らず尙邦人の寶石商あり此商人の評によれば同一品にして日本及び西洋にて五六割高價なりと之れも容易に信す可からざるも寶石の產地だけに眞物は多少低價なるやも知るべからず土人の商人は五月蠅く附き纏ひ不必要なりと云ふも顧みずカバンを開きて品物を陳列し強て勸む偶々購求せんとする人あるも値段談判に數時間を要し然る後稀に一二品を賣買するに過ぎず之によりても値段を一定にし且つ正直なりとの信用を得る

は商業上大切なものと明也。

此の地は船中に来る寶石商のみならず市内の商店にても外國人と見れば呼び入れ親切氣に装いて偽欺し加之街上にぶらつき居る浮浪人集り來り何彼と親切振りを見せて世話し酒代を強請せんとして實に五月蠅き所なり從つて『サンパン』の舟夫甚惡しきを耳にし予等は常に『ランチ』を利用せり。

九月十二日午前十時コロンガを出發し西方に向へ航定し見渡す限り眼を遮るものなく唯茫々たる廣き印度洋の青海原風は靜かなるもさすが大洋波穩かならず船に弱き予等餘り愉快にもあらず一昨日來の疲勞を長椅子の上に醫す可く午睡に午後を費し今後七晝夜の航海即ちバベルマンデブ海峡まで一点の島嶼をも見ると能はざるを聞き聊か心細き感なきにあらず。

九月十三日午前五時三十分起床海上穩かにして涼風頻りに來り華氏七十四度を昇らず昨日午後より本船も一時間に約十三哩を航走し正午本船の位置は北緯七度五十五分東經七十四度二十分自神戶五千六百七十七哩至マルセイユ四千六百四十六哩なり勉強嫌ひの予も退屈のあまり頭腦の土用乾にてもなさんかと書を手にして甲板に出づれば類を以て集る勉強嫌ひの先生等久し振りで『テツキビルラード』をやらんかと發議す直に此に雷同し午前より午後三時頃迄必死と戦へ一同疲勞を覺へ長椅子の上に仰臥せば腹の空虚となりしを感じ珈琲の出するを遲しと待ち居りしに天の與へか予等邦人三名に日本茶に汁粉の御馳走を頂き『ビルラード』にての汗を入浴に洗ひ落し六時の鐘鳴に晚餐を終へ蓄音器を持ち出し浪花節淨瑠璃粹な歌落語に命の洗濯をなし十時『ベツト』に入る。

九月十四日午前六時起床甲板上に出づれば東天紅に紅球昇り本日の快晴を告げ海は鏡の如く廣き大洋に免れ難き『ウネリ』も殆んどなく本日の無事航海を喜ぶ正午本船の位置は北緯八度三十四分東經六十九度十八分自神戶五千三百七十一哩至スエズ二千七百四十四哩なり終日『テツキビルラード』或は讀書談話に退屈を忘れしむ。

九月十五日午前五時起床快晴なるも時々驟雨來りて涼しく華氏七十三度を昇らず正午本船の位置は北緯九度十四分東經六十四度自神戶五千六百九十一哩至スエズ二千四百二十四哩なり日没頃退屈のあまり太陽の地平線を接してより全体の正に没する迄の時間を袖時計にて昇測したるに二分十秒を要するを見たり此時間はいち地球が自轉によりて太陽の直徑だけ廻轉に要する時間なり本日は舊曆八月十五夜を廣き印度洋上に迎へ午後より曇りし空も月の昇る頃より積雲消へ去り煙々天空に懸り予等甲板上に青き莢豆の鹽煮に『シャンパン』酒の月見の會を開けり唯里幸と團子のなきを恨み盡きぬ月光を後にして十一時『ベツト』に入る邦地にては午後九時三十分月蝕なるも印度洋上にては時間の關係上(邦地より約四時間)遅れ見ると能はざりき。

九月十六日午前六時起床快晴にして涼風稍強く從つて波高く船の動搖も稍著しくもコロンガより數日來の船海に馴れ毫も不快を感せず『テツキビルラード』讀書午睡雜談にて十六日も過す正午本船の位置は北緯九度五十三分東經五十八度五十九分自神戶五千九百九十一哩至スエズ二千二百二十四哩にして最早や八日間にスエズ運河に達する豫定なり。

九月十七日午前六時起床曇天にしてアフリカ大陸に近づきしを以て西南の季候風(モンスーン)益強く從つて船の動搖甚しく昨日迄鏡の如き海上に今や航海に馴れし故如何なる怒濤にも辟易せず船の動搖却て愉快なりと大氣船の下に盛んに『テツキビルラード』を遊び毛唐等を敗伏せし予等も昨晩來の著しき船の動搖に昨日迄の陰辨慶も季候風と共に吹き飛ばされ長椅子の上に背息吐息食事の鐘鳴には互に苦笑を漏して食堂に出づるも忽々にして甲板上に出で長椅子の上に仰臥し昨日迄壓迫されし毛唐連も今日は俄に活動を始め盛んに『テツキビルラード』を遊び甲板上を蹂躪し居るも船艙に惱まされ居る予等は彼等の活動を怨めしげに目送するのみ正午本船の位置は北緯十一度十八分東經五十四度二十三分自神戶六千二百七十四哩至スエ

ス千八百四十一一哩なり今朝來荒れし印度洋も午後六時頃より追々穩かさなり予等寢臺内に明日後の風を祈願しつゝ故山の夢に入る。

九月十八日午前五時起床快晴にしてバベルマンデブ海峡に近づきしを以て荒れし印度洋も鏡の如く穩かにして唯僅に漣の波立つのみにして船暈に惱まされし予等も昨日の弱音を反し大氣焔にて終日甲板上を『テッキヒルラード』にて荒廻り毛唐筆を甲板上の一隅に壓迫し愉快に退屈を覺ゆず十八日を過す本船は昨日の怒濤にも拘はらず全力を出して一時間に約十三哩を航走し正午本船の位置は北緯十二度二十七分東經四十九度十八分自神戸六千五百八十哩至スエズ千五百四十六哩なり紅海近く來りしを以て溫度稍昇り最高八十五度を示し風は追手なり夜は船室内の蒸暑さに眠る能はず深更迄甲板上面にて長椅子の上にて眠る。

予は其根本の問題たる國民の覺醒に就き友に曰く數十年來不完全(予の意見よりしては)なる國民教育を受けたる國民に覺醒を迫るも其實現は不可能なり故に今後國民となりて活動する青年を教育する國民教育に着眼せざる可からず即ち第二の國民を養成する小學教師中學教師に政治的頭腦を抱かしめざる様成立せる國民教育は完全なりと云はんか寧ろ國民教育の根源たる師範學校等に於て一定の時間を設けて政治的頭腦(敢て代議士云々法の明文を云々する如き)のみの狹意の政治的頭腦にあらずして世界各國の趨勢に基きて世に處するの頭腦を云ふ)を養成し立派に政治的頭腦を有する教育者をして第二の國民を養成せしめざる可からず意味深長云々など古き文章を弄ぶ時期にあらず唯趣味ある特志家から娛樂的に研究す可し此に基く多少の弊害は勿論免れざるも其其結果の大なるを思へば顧慮するに足らず不完全なる國民教育を受けたる現今の青年は普通教育を経て故郷に執着し祖先よりの遺産を繼ぎ死用を利して唯其自然的増殖を計りて小寧を喜び外國の如き親より相當の生活を爲し得可き程度に養成を受くる權利終れば祖先の遺産に耳をかさず活動する觀念は毫もなし偶々高等の學校に進むも

唯自己の衣食住を装ふに美を以てすることのみに努め毫も國家的觀念なきものを遺憾ながら往々見受く故に現今の國民教育に尙政治的思想を鼓吹し得可き科目を附せざる可からず故に政治的頭腦なき國民には如何に聲を大にして覺醒を促すも到底其實現は不可なりと結論せしか彼は曰く何故に其聲を以て世に立たざるか予は答へて予には天職あり其を全ふせざれば職務に不忠實の責は免れず且予には今其聲を大にするの時期にあらず時期の來るを待つて聲を大にせん決心なり今其時期を自ら作り出すの成算なし此も政治的頭腦を養成せざるに移むる國民教育を受けたる結果ならんか互に兩岸沙漠よりなれる紅海の中にて傍若無人の大氣焔を吐きて九十餘度の暑氣と退屈を忘れしむ。

正午本船の位置は北緯十六度四十五分東經四十度五十六分自神戸七千二百十六哩至マルセイユ二千五百十一一哩なり午後は多少風吹き來るも華氏百二十餘度に熱せられなる沙漠より來るを以て却て暑氣を増し華氏九十三度を示す十數日來印度洋の贅澤なる避暑旅行に馴れし衆皆一昨日來の暑氣に兜を脱ぎ椅子の上にて暖かき風に幾分の溫の發散を希ひつゝ讀書雜誌に時の過ぐるを待てり午後三時三十分頃(毎日珈琲の饗應を受くる一定の時間)に意外にも予等邦人の爲めに蕎麥の御馳走を頂く熱き紅海の海上にて氷にて冷せる筑蕎麥の美味到底内地人の想像し能はざる所なり今朝來の酷暑に中てらし予等も此美味に蘇生の思をなし肥たる腹を夕食に故障なき様に數日來船首の甲板に設けられたる海水の游泳浴場にて蕎麥腹を虚にし淡水の湯に鹽水を洗落し晚餐に明日活動の『エネルギー』を詰め込み昨晚の如く船室内の蒸暑さに堪へず甲板上に出て椅子の上にて夜遅くまで淺き睡眠を貪れり。

●岡部忠清氏通信

(四十三卒業) 在マニラ。十全會宛)

全氏は去明治三十年頃本校本村博士と共に外科教授たりし故醫學士岡部忠氏の遺子にして去四十三年本校を卒業し暫らく郷里福井縣下にありしも青年の勇志抑ふる能はず奮然異郷に活動して邦家のため努力せられつゝあるなり切に全氏の健在を祝す。

顧みれば小生が故國を去りてより星霜を經る一年有餘日渡來後早々公醫認定試験のため語學の研究各科目の豫習にて乾きたる腦漿の洗濯に忙しく幸にも今同宿志の緒は解りつるも今更往年の不動愼が身に侵み渡り悔悟の念禁じ難く候誠に青春時代に於ける修養こそ渡世の生存競争場裡に處するに肝要なる意義ある事を適切に自覺仕候

當比律賓群島に於ける公醫認定醫術開業試験は吾人に採りて一大難關たる事に有之候小生渡馬前は本邦醫學專門學校卒業証書を有する醫師は當島到處任意に開業する特權あるやに傳承致居候へ共渡來後正式に當該官廳に交渉を試みし處比島總督府法規第三百十條に依る公醫認定試験に合格せざれば公醫たるべし資格無之義にて受験科目は Anatomy, Physiology, Chemistry, Materia medica and Therapeutics, Pathology, Bacteriology, Hygiene, Surgery, Practice of medicine, Obstetrics, Diseases of woman and children, Diseases of nervous system, Diseases of eye and ear, medical jurisprudence. にして此全科目を二日に渡り僅かに十二三時間位に一科目五問題宛の解答を要し候へば規定時間内に即答筆記せざるべからずために受験場裡に於ける土人のペンの運用見るさへ驚かにて迅速なる到底小生の企及すべきも非らず覇氣満々たる念に馳らるゝ小生は彼等後進國の民と雌雄を決するこの戦上に孤軍奮闘思はず流汗淋漓未知の發汗藥を發見致候は是又後學の參考の好資と相成申候

比島公醫認定試験資格は當島唯一の醫科大學卒業生に相當する學校の卒業証を有するものに過ぎられ受験期日は毎年一、四、七、十月の第貳水曜を以て開始せられ受験語は英、西、夫れの語にて解答するも差支なき規定に有之候て吾人に對しては語學未熟のため辭書の携帶を許可せられたるのみにて他は土人受験生と同一なる機能の下に考試せられし義に候

小生義は今同僥倖に先生の御加護に依り比島政府發給の公醫認定 Diploma を護取する事を得一年有餘日の苦闘も水泡に歸るなくして Doctor of medicine と號する様に相成り目下地下を卜し開業準備中に有之候日進月歩駿々として止まざる醫學に對しては益々研究を試むる決心に御座候へば以後何分宜敷御教示に預り度偏に願上候

扱て現今當比島に於ける公醫認定本邦ドクトルは Mindanao 島に鈴木西照氏 Iloilo 市に橋本音治氏 Manila 首都に奥村貞京氏江川久之助氏に小生を加へたる五名にして土人間に於ける一般本邦醫の聲價は非常に氣付能く從て信用あり米醫の不親切土醫の高慢に反して日醫の彼等と同人種的情感より生ずる尊敬の心と親切なる應答に深くも信頼を醸し大に日本醫師を勸迎する傾向あり山間僻地に住む蠻民等は邦人凡てが醫療の途を熟知するやに確信し村落を徘徊行商する菓子屋迄に治療を強請する事稀ならずして多々笑談も可有之候從ひて目下法網をくぐる不學の徒が賣藥行商を營み暴利を貪りつゝあるは本邦人の眞價を傷ぐる点に於て實に慨嘆に堪はざる義と存候

舊臘中吾校出身の刀稱有恒氏の渡來せられ目下切りに受験準備中に忙しく見受けられ候は聊か吾人の意を強ふするものにて地は僅に南陸の臺灣と一葦水を隔つるのみに御座候へ共熱帶國內の新風光たる或は椰子の繁ける萬蔭に爾後の月光を臨み猛獅一吼百獸懼伏する蕭瑟たる椅上の夜半如何にして足下に猛ふ猛獸や蠻人の襲來に抗せんかを夢み或は炎熱烈しき白日時せぬ急雨の塵世を一洗し涼風徐るに辭簪たる芭蕉の葉を搦かし白鳥奔騰する

斷崖の下、盆大真紅の花一輪今や碧水に落ちんとする邊、獨り小舟に掉して戀歌を聴く實に其雄大なる趣味と豪宕なる結構は南洋に客たらざれば解するを得ざる義にて現時物價昇進し生活難の聲高き故國に徒らに西歐の文學に食傷し華嚴の巖頭に人生の不可解を嘆き忍ケ岡星淡き邊に戀愛の神聖を説く青年は宜しく來つて花を此の豐沃の野に植へ生存競争場裡の新血路を開發して此の天然の恩澤に浴せん事御高見の如く切望の至りに存候抑々南洋の地たるや地理上世界樞要の位置にあるその殊に比島の米國が夢寢の裡にも忽略にする能はざる所以のものは東西の舟路の要衝に當り政治經濟上好箇の通所たる地理的關係の然らしむる点に有之候長崎より蹴破する行程四日マニラ灣頭コレキドル島上紺白の星旗翻々として藏るは實に逆さしマツキンレーの英姿颯爽たるにも似て地の利に據る野心家の覇を南洋に握る門戸の紋所と首肯いたされべく候今や比島統治權はデモクラット黨の掌中に落ち比島總督ハリソン氏は切りに土人懷柔策を施し土人任用令を布き専ら比人識者の甘心を買はん事に腐心致居候へ共一朝比島獨立問題の新上に喧傳せらるゝや土語新上は筆を揃へて占領當時民衆に誓ひし獨立誓言を食みし政略を盛に攻撃し反抗を試みつゝあるも蓋し逆さしマツキンレーの野心を廢棄せられたるには非らずして時勢の推移に依り蠻民がフォーク、エンド、ナイフを試みる時機に至りたるを以て唯政界上嚴父が無智なる一人息子に對する一片の訓示に止る慰撫的發表に外ならざる義と存候夫れ比島は海波一碧の太平洋中三千百有餘の大小島嶼を點綴恭布したるに似たれども民衆の棲息し得る僅かに四百有餘島に過ぎず候人口約壹千萬面積拾壹萬五千餘方哩と注せらるゝも未だ混沌として精確に調査したるには非らざるものゝ如く是等諸島は大概山嶽疊嶂し羊腸崎嶇の險を極め候へ共未だ千載斧鉞の痕なき一大深林の濃翠色を呈する寶庫もあり窟嶽の開く處沃野千里一面の翠綠を彩り地味肥沃耕耨せざるも彼の紫煙蓬々たる香氣馥郁のマニラ煙草の繁茂する富源もあり數來ればマニラ麻砂糖「コブラ」の重

要生産物は實に雨滋き此の比島の自然が醸す賜に御座候馬尼拉は呂宋島の北部 マニラ 河に跨りマニラ灣に臨み人口三十餘萬を載する比島の首府にして完全なる築港内には各國の船舶輻湊し僅に二萬噸以上の巨船を繋留し得る巨大なる三個の波止場は恰も半島の如く凸出し場内貨物の聚散運搬の用力には凡て電氣を使用して米國式の本領を發揮せしめ市中道路完備し熱帶特有なる屋宇は櫛比し電車馬車の便整頓し加ふるに近時流行する自動車の駛走する二千臺以上の多きに達して交通洛驛したために塵埃炎天に漲り白日は宛も紅塵万丈の巷に化し申候は衛生上よりは有害たる義に御座候へ共夕陽將にマニラ灣頭に懸るの時八千々公園の邊麗麗掬すべき照映に面しては此思を忘れしめ音樂堂より徐るに傳はる世界に冠たる比人樂手の奏する嘈々切々たる美音に接して身神仙の境に在るものゝ如く感じられ實にマニラは熱帶圈内比島首都として誇るに足る處に背せられ候目下マニラ市に在留する本邦人は千有餘人、領事館、三井物産、伊藤商行、太田興業會社、田川商店其他五六の雜貨店の外邦人の商業的經營としては特記するに足るものなく在留民の多數は木工、漁夫にして其八分を占め他は南洋方面に有名なる娘子軍にて其二分を有し申候白日彼等が臆面もなく日本國の体面を汚すは實に慨嘆の至りにて例今彼等の侵畧性ある現象は幾分赦すべきも本邦人海外發展の先驅者としては物足らぬ心地でせられて節操の切實に殺風景極まる醜態を現はす彼等は善意より解するも餘り感心すべき營利なる事業には認められず候

比島の氣候は半期は降雨のため苦しめられ半期は炎暑のため痛めらるれども概して朝夕温度の差著しく振めに凌ぎ易く存候夏期は大凡平均華九十七八度内半雨期華氏七十度内外にて目下朝六時半華氏六十五度晝三時九十度三夜八時七十五度内外に昇降いたし居り恰も本邦に初秋の候の如き寒暖を覺候比人古稀の言に依れば目下の氣候は三十年來の寒冷なりと蓋し比島周圍を奔走する潮流の變換關係によりて然らしむるか私思仕候

當島一般の衛生狀態醫學會の模様等に關しては渡馬尙日淺きために見聞狭く他日調査するの機を以て御報道申すべく候へ共目下當市にベスト、コソラの小流行あり衛生局員の奔馳し多忙に見受けられつゝるも完備せる官立研究所避病院等の存在するあれば差したる害毒は流すまじく存候
人口に喰炎する Burnt 祭は本月七日より十四日迄舉行せられ同時に内國博覽會も開設せられ市中雜鬧を極め申候本邦在留民團よりも萬國平和會議に擬する山車を引廻し非常の人氣を博し申候は同慶至極の義さ存候
先は御無沙汰當概況御報迄斯の如くに御座候尙小生義は嘗て金澤醫學專門學校教諭たりし故岡部忠の孤子に候へば以後何分宜敷御愛顧の程伏して願上候敬白

●宮田教授通信 (外科二部宛)

第一 信

二月廿七日京都大學に遊び同夜神戸十全會員の送別會を受け廿八日午前十一時神戸出帆瀬戸内海の風景を賞しつゝ翌朝八時門司着直ちに上陸福岡大學及市内を見歸船愈々本日午前十一時故國を離るゝこと、相成り候茲に謹て諸兄の御健康を祝すると同時に御發展を禱るものに御座候 (三月二日、門司、平野丸にて)

第二 信

過日上海宛御投函の御葉書有難く拜誦仕り候、一昨夜無事上海上陸直ちに韓、厲、張三君の旅館に誘はれ自動車にて市の内外見物、夜は芝居、罵路の夜景見物仕り候、昨日は瀟車にて張君の居所蘇州に參り、明時代の貴人邸宅、寒山寺、城門、物産陳列所等を驢馬にて或は馬車にて見物、夜、上海に歸り申候本日十一時本船に歸り午後三時香港に向ふこと、相成申候、三君よりは非常なる優待を受け全行の寛君、九大工科の織田君共に大満足

致し居られ候、上海の繁盛なる海岸通りの家屋の立派なることに田舎者只た目を驚かし申候 (上海より)

第三 信

濃霧の爲豫定より一日遅れ本日香港の港、初めて西洋に來た様な心持仕り赤毛布只た目を廻して一驚を喫するのみ、明日午前十時出帆シンガポールに向ふ豫定 (三月三日於香港)

●岡本京太郎氏通信 (在京大醫學教室)

小生出發前御暇乞申す可き筈の處取り急きし爲失禮仕り候入室以來尙日淺く未だ充分に教室内の模様も分らず從つて御報導申上くる事も無之只指導せらるゝ通り無事に働き居り候併し教室内の諸君皆精力主義にて何れも十二時間以上勉強致し居られ候には驚き入り候母校出身は岡島兄の外、賀屋内科に中野憲吉君あり又近藤勇君外科研究に參られ時々舊談を持ち出し居り候

●四十一年度卒業生諸君へ

京阪同窓生

會員諸君殊に四十一年度卒業生諸君、其後は如何御暮しですか、哪各方面に御發展のこと、御察します、吾々も平素は大に御不沙汰計りで諸君の消息を伺ふことも至て稀で從て吾々近時の情況を御通知すること、少く誠に濟まない譯であるが實は同窓諸君のことは片時も忘れたことはない一寸した機會でもあらば出來得る限り同窓の者が會合して話をして見たい希望を有し實際また希望に留めず實行しつゝあるのである、茲にその最近の會合を催したから一寸諸君に御報告すること共に他の地方に於て斯様な會合があ

校内雜報

●記念館設立

曩きに我十全會の代議員の總會に於て全會一致して來五月十一日本校創立二十五年の紀念祝賀式を舉行せらるゝに際し我十全會の學生及び特別會員及び地方の特別會員のために記念館を設立することとなりたるにより會員諸君は母校のため我十全會のため且つ後進者のため奮て御賛助あらんことを希望したるに其後續々申込まるゝ諸氏の中には或は該記念館費。十全會費。高山教授在職二十年紀念品贈呈費等を混合して御送金相成る方々多數有之甚だ間違ひ易き傾あるにより可成は爲替券を別々にせらるゝか或は明細に記載せられて錯誤の豫防に御注意せられんことを切望す。

●福士教授を迎ふ

曩きには土肥。須藤。石坂。林教授の新任あり今又た新進氣鋭の福士教授を我病理學科に迎へ村上教授は法醫學を専ら擔當せらるゝこととなり福士教授は明治四十一年東京醫科大學を卒へて東大病理教室の助手となり山極博士の下に全學を專攻し更に四十四年自ら獨乙伯林大學に遊び斯界の巨擘たるカルト博士に親炙して更に其編奥を極め終には全教授の助手に選拔せられて研究を持續し今年二月中旬歸朝せられて本校に就任せられたり。本校の教授の斯く年を追ふて増加し近き將來には石坂。須藤両教授の

つたなら其の景況を當誌上に於て御通知が願ひたい、そうするとなつかしい諸君の御起居も知れて樂しみを分け貰へることになる、さて京都で名取博三(内科開業)、大原米次郎(耳鼻咽喉科開業)の二名、大阪で岡勝重(一開業、鎌尾萬明(眼科開業)、加藤錠吉(軍醫)の三名が三月一日の日曜に大阪に集合した尙小田善壽、岩井尊崇君や神戸に二三あるが都合がわるく會合の機を得なかつた、先づ紀念の撮影をやつてから大に兼六や犀川淺野川の話、いや第一に恩師諸先生や濟々堂の話をすると同時に諸君の噂を大にやつた恐らく噴嚏を澤山にせられたことであらう、會合者中には學校時代の「ボロ」をスツパ抜かれたり卒業後の活動振りを天狗になつて誰も遠慮する者はないから大氣熾當るべからず云ふものもあつた大に舊交を温めて時の移るも知らなかつたが御互に濟生の道にあるので患家に迷惑を掛けではならぬと云て惜しき名残を留めて分れたが今年は御大典が當地で行はせらるゝから其の節は同窓諸君よ振て京阪地方へ出掛けられよ、吾々も會合して再び油揚げ時代に還り壯言豪語しようではないか、吾々は大にこの機會を得むことを待て居る、又及ばず乍ら序に京阪地方御見物なら御案内の勞を取りませう、乍末諸君の御健康を語る

(尙ほ全君の二例の極めて鮮明なるレントゲン寫眞二葉を送附せられたり)
一、稀有なる胸腔内異物(針金)

東京樂山堂病院外來患者、加藤錠吉撮影(半秒)七十才男子遊戲中誤て鼻腔より咽頭食道を経て肺臓内に穿入、最初嚔下痛ありしのみ數日後に至るも喀血吐血等なくまた体温上昇肺炎症狀等を來さず(其後の経過を知らず)針金は右胸部後上方より前下方に向へり

二、外傷性眼局性化骨性筋炎 左内臍筋
大阪衛戍病院入院患者(加藤錠吉撮影)銃劍術の爲め軍隊には屢々實見するものにして單に一回の外傷(馬蹄傷の如き)により四頭股筋等にも來りしものあり

歸任せられんとするあり本校の前途益々多望なりと謂ふべし。

●宮田教授送別會

本校教授宮田篤郎氏は去二月二十八日出發して渡歐の途に上られたるに付
き全月十六日殿町樓に於て開會せり會する者本校及び病院の職員は勿論に
て尙ほ金澤市内の開業醫士、川崎内務部長。佐々木警務部長。和田判事諸
氏のみならず遠く越前及び越中地方よりも多數の出席者ありて總數百三十
餘名に及び、是れ偏に全教授の德望の然らしむる所にして下平教授は開
會の辭を述べて宮田教授の行を壯にし宮田教授の謝辭ありて開宴し絶えず
爆竹の餘興ありて興を添へ非常なる盛會を極めたり。

●加藤博士學位受領祝賀會

本校醫化學教授加藤寛氏は歸朝後永く京大醫化學教室にありて荒木教授の
下に更に一層醫化學を研究し本校に新任後論文を提出して學位を請求せら
れしに全教授の該博なる學識と高崇なる人格とは果して當路者の認むる所
となり去十二月二十六日醫學博士の學位を受領せられたり茲に於て去二月
二十二日本校大講堂に於て左の順序により盛大なる祝賀式を挙げたり。

開會の辭	委員長	佐々木教授
祝 辭	校長	高安博士
祝 辭	同窓生總代	河崎有作
祝 辭	門人總代	藤岡孫喜
祝 辭	生徒總代	青山繁
祝 辭 (獨逸語)	ドクトル	河合 齋
紀念品贈呈	委員長	佐々木教授

謝 辭

正 賓 加藤博士

右終りて餘興あり囃子。狂言。講談。三弦。『ウアイガリン』等ありて午後
六時散會し之より夜間には北國劇場にて學生の主權に係る祝賀餘興あり前
の下平博士の祝賀會と全様に非常の盛會なりたり。

●金澤病院醫事集談會

▲第十回集談會。 二月十九日 座長 高安部長

一、先天性梅毒(?)に依る右眼全筋麻痺及
左眼外直筋麻痺 源明藤吉

二、食慾の本態並に食慾と胃の官能との關係 近藤清吾

三、母乳營養兒の營養障礙 林 部長

▲第十一回集談會。 三月十九日 座長 佐々木部長

一、惡性淋巴腺腫ノレントゲン療法の一例 今村鐵夫(外二)

二、脂肪肥滿性眼瞼下垂症の一例 源明藤吉(眼)

三、追加 高安教授 林 部長

四、組織包埋法及染色法供覽 福士教授

●圖書月報 (其七)

醫四村山良平

▲寄贈圖書並に芳名如左。
一、皮膚科學 (三版) 上 土肥先生

二、皮膚病微毒學纂錄

三、東京帝國大學醫科大學皮膚科患者統計

四、先生の「アルバイト」別刷貳拾種

局處解剖學 (第二卷)

鼻科學 (下卷)

胃醇酵素及び其臨床的意義

一、實用繩帶學

二、日本赤十字社發達史

三、國柱新聞

彩色風景銅版畫五種

謹て御厚意を深謝し永く本館の記念とす。

▲新着十全會購買圖書如左。

一、寄生物性病論 第三卷

二、全 補遺

三、免疫學

四、日本內科全書 卷參

五、全 卷八

六、最近寄生原蟲學

七、耳科學圖譜

(上記七部)

自大正參年壹月壹日至貳月貳拾八日

閱覽總員七百八十七名

內 譯

特別

醫 四

醫 參

醫 貳

醫 壹

壹 月

一八

一三二

一〇三

五六

三

貳 月

二八

一五六

一七六

九八

一七

偶々造化小兒に弄ばれて入院の苦を味ふ一封朝に送る風聲鶴唳夕には愚悻

尙ほ思ふ至情に溢れ給へる老嚴君の御來澤を迎ふ忽ち膝を交へて徹夜寒宵厚歡顔に語れ共未盡きす明れば再び南の方東海の邊に歸る吾人は彼の南枝を撰ぶ越鳥に非ざれども久しく此土に留まる一遊士懷郷の情緒は湧然として禁じ難く加之此日我十全會圖書室は内科一部研究室より外科二部研究室に至る而も是病後の移轉豈復多少の感慨なきを得ん哉即ち記して月報に寄す。

それ現代の醫學が便宜上内外兩科に相對的差別を設けられ而も端然たる境界線を劃し得ざるは尙ほ全圖の表裏に於て凸凹の二者を發見するに絶對的同一にして主として是が考察に當り其の立脚を同せざるの致す所とすされば醫術が終極の司命たる疾病を未然に防ぎ病苦を緩快救助するの際自ら其間何等徑庭の存せざる義明なりと雖も吾人はその大同中に小異を縷々抽象し以て陶犬瓦鷄の類を呼び曖昧糾繞の言を列れたるは只單に自己の夢想を恣にするの一助たらしめんとするに他ならざる而已

抑金澤病院内の内科外科研究室は各れも對照的位置を占居す即ち一つは西北に端し一つは東南に偏してその關係恰も南北表裏日本を澎翹たらしむ然も内科學的診斷の小心翼々熱量細微に過ぎ外科學的診斷の大膽堂々考察等閑に傾くが如き或は前者は因循姑息的に渡れば后者は急迫根治的を旨とす甲の機能的對照療法に委ねられ乙の機質的原因的療法に廻らんとし一つは沈鬱の象猜疑の眼を注ぎ他は豁達の氣圓轉の手を運ぶ其の他彼は主觀的形而下を以て要義とすれば是は客觀的形而上を以て銘教とすの類餘事録々數ふ可からず庶莫近世醫學史を續きて時代の風潮と變遷の經路とを觀察するに及べば一時的保守的而も休止的たる内科學治療法は「ブヒャー」の自家中毒說現はれて以來器械的藥物的方面に於て幾多の進歩を認むるに吝ならざれ共要するに病苦緩解自然良能の輔佐、病者身心の保護策等より出でざるが如し然り而して之を持久的進取的而かも活動的たる外科學に立證すれば「コロ、ホルム」「エーテル」を用ひて全身麻酔法の發明に次ぎ「リスチャ

「」の創傷防腐裝置を案じ延て「シムメルシユ」の無腐法を提唱するに及びて手術的成績大に掲る更に局處麻醉として「コカインアドレナリン」注射或は滲潤傳達麻醉法など陸續創意を發表せられ遂に近時内科の範圍を蠶食しつつあるが如き内臓外科を賄すに至れる哉如上の一頁を回觀すれば蓋し思ひ半に過ぎんのみ。

今や百尺竿頭餘に一步を轉じ吾人に會て道德法に於ける宇宙大意識の縮少顯現なりと歌はれ神の子なりとして其の寵を祝ひしも苟も自然法の園埒を解脱し能はざる生物は斯學の研究と共に人類をして彼の飛禽走獸に施され草木土石に布かるゝ大憲と等しく管理せらるゝは何も識者万人の認むる所たり然れば古へ美しゝと誇りし我が肉體は今は彼等と相去る遠からざる細胞組織より構成せられ尙且彼の醜き獸類と其祖を同する子孫なりと盟はるるに至る之れによりて是を見れば吾人の身體を構成する組織細胞は外界の影響によりて假令其の遲速はありと雖も必ず以て機能對應の諸現象は「ル」氏の唱道に依りて何等疑念を挟む餘地なきものなり更に吾人は藍田生玉の遺傳的關係は彼の「ヘツケル」及び「ダーウケン」により詳にする所なれども尙亦その進化向上の状態は「ワイズマン」説に左祖せんと欲すそれ梅檀は二葉より覆き個人の實質は動かす可からざるにもよせ又將門將を出す家庭の薰陶は決して忘却するを得ず尙時代の潮流と社會の氣風との感化は免るゝ能はず其他暗黙の間に多大の影響を與ふる風土の關係は掬水月在手の語と共に到底逸す可からず。

若しその這般の論據要して眞ならば再び想を廻して本旨に入らん、借問す今や進々炳として日照の如き我が醫學に而も燦爛たる光彩を添へし外科は十全會圖書室の周圍に在るに非ず哉遠く巍然獨露する高峰醫王の反影は正大之氣と共に館内に漂に非ず哉此の時此の所我が親愛なる會員をして暗々裡に陶冶し教化する所蓋し又大なるものあらん縱て純正醫學は應用醫學と相待ちて未だ尙吾人の理想郷に圓滿十全なる賛辭を呈するに餘りに晨き

に過ぎ幾多の濟輩は朦々として難間霧中に逍遙するが如き際千里を洞見するの爛眼を開き一世の警鐘となりて暗明を打破し迷夢を撥醒し以て眞理の赫々たる光明を知らしめ一つには世道人心に裨益し一つには自己の天職を全す可き桂林の大幹淋々として排出するは我が十全會圖書室の特に期して待つ所のものなり

終りに臨み一度窓を排して雙眸を放てば宿鳥一聲春宵東嶺に上る旭光は會て昨の晚鐘堂々として斷水を渡り雲を出でゝ餘韻久しく傳ふる秋暮の比にあらず而も醫王の東南は峨々たる巒峰雲表に聳へ白出の一条蜿蜒々長蛇の如し、その東南は沃野千里濃尾に跨るその東南は我が懐しき梓里なり、六千尺の段嶺は絶巔天に參りて終に縁を裝ひ矢矧川（矢作川）の水は三十里洋洋々として清き流は渺茫たる三河灣に朝す此地此天譴然と漲る精靈の氣は東照公を孕みて龍ヶ城に生れ後移りて千代田の礎を定め以て舜雨幾風天下に聳れからざるはなく遂に時間的二百六十五年に渡り空間的六十餘州に及び人民太平を謳歌す豈計らんや人心ゆるみて大勢は西に傾き今や此土の華風は長へに止みたり嗚呼江東の郷里今尙ほ老ひたる嚴君あり倚門之慈母あり僅に一人の鶴鶴の弟ありその他幾多の瓜葛之親あり陸沈の師あり竹馬の友あり噫懷しきは東南の空嚮望を屬する東南ある耳噫若し翼あらば復東南を措いて豈外を求めん哉（大正參年貳月壹日）

●第壹回十全會圖書室雜誌抄讀會

期日 大正參年參月廿六日午後三時

會場 金澤病院會議室

同好の諸氏廿五名列席せられ盛大なりき。

演題及び出演辯士氏名左の如し。

第一席 吃逆に對する「ルミナル」の効力。（治療新報）

第二席 癢疹疹に食鹽水注入療法の一例。(中外醫事) 醫參 田 村 君 全 人

第三席 鼻咽腔に於ける「シフテリ」に對する療法。(ゲーゲンワルド) 醫四 織 田 君 全 人

第四席 凍傷に對する「レントゲン」療法。(治療新報) 醫四 池 田 君 全 人

第五席 男子遺尿症の攝護腺「マッサージ」療法。(治療新報) 全 人

第六席 遺尿症の膀胱内括約筋部焼灼療法。(治療新報) 全 人

第七席 眼球結膜の惡性腫瘍に就て。(内科治療) 醫四 毛 利 君 全 人

第八席 脚氣の原因。(内科學) 醫參 野 木 場 君 全 人

第九席 砂糖療法。(實際醫學) 醫四 村 山 君 全 人

第十席 肋膜炎と刺筋症狀。(實際醫學) 全 人

第十一席 クラブ氏扁桃腺切除法に就て。(ゲーゲンワルド) 醫四 桶 井 君 全 人

討論 太田、織田、池田、中島、四君 醫四 石 川 君 全 人

第十二席 「アルコール」の亢奮性。衛生) 醫四 三 浦 君 全 人

第十三席 最近東京地方に流行する一種の熱症に就て。(東京醫事) 醫四 中 島 君 全 人

第十四席 下熱劑は心臟毒。(實際醫學) 醫四 栗 山 君 全 人

第十五席 雙眼視野計。 醫四 全 人

備考 一、第貳回 四月中旬會開

二、會 場 金澤病院會議室
三、演說時間 一名十分間
四、討 論 一問題參分間
五、演 題 雜誌擔任希望の諸氏は申出されまし
十全會在校生諸君は何人にてても圖書室中の雜誌中より演題を
求められ度し。(丁)
(村山生)

叙任及辭令

●石川縣

大正三年一月三十一日

外科第二部長囑託宮田篤郎不在中代理ヲ囑託ス

六級俸給與

耳鼻咽喉科部長囑託宮田篤郎不在中代理ヲ命ス

年手當金四百圓給與

金澤病院巡視ヲ命ス
月手當拾貳圓五拾錢給與ス

大正三年二月二十日

下 平 用 彩

佐 崎 伊 久

宮 田 篤 郎

西 川 邊

金澤病院長兼内科第一部長小兒科部長 山 碕 幹
兼小兒科部長囑託ヲ解ク

金澤醫學專門學校教授 林 篤

願ニ依リ囑託ヲ解ク

全 人

金澤病院小兒科部長ヲ囑託ス
年手當五百圓給與

金澤病院醫員 奥 山 義 盛(三)

十一級俸給與

小兒科勤務ヲ命ス

大正三年三月十日

幹事正八位勳七等 松本 彌次郎

囑託ヲ解ク

全 人

金澤病院管理部長ヲ命ス

年俸八百圓給與

金澤病院管理部長 岩 本 秀 雄

依願職務ヲ解ク

大正三年三月十七日

金澤病院醫員 馬 詰 定 衛(三)

全 牧 田 泰(三)

全 小 泉 義 久(四)

依願免本職

石川縣警部 高 橋 秀

金澤病院幹事ヲ囑託ス

月手當金八圓給與

大正三年三月十八日

金澤病院醫員 白 田 重 真(三)

願ニ依リ職務ヲ免ス

人 事

●宮田教授ノ宿所

Herr Prof. Dr. T. Miyada

bei Nippon Club

Apostelkirche 8,

Berlin W, Deutschland.

●嶋田吉三郎氏ノ宿所

Herr Prof. Dr. K. Shimada

bei Lacher, Ringselstrasse 11 II.

München, Deutschland.

●自 宅 開 業

大阪市東區北久太郎町一丁目

愛媛縣東宇和郡土居村大字土居町

濱地 藤太郎(七)
岡村 勝俊(六)

●轉居會員

熊本市東外坪井町六番地
大坂市東區北久太郎町一丁目
愛媛縣東宇和郡土居村大字土居町
京都伏見騎兵第二十聯隊附軍醫
新潟縣西頸城郡名立町
福井縣大野町二番、松田忠右衛門方
伏見輜重兵第十六大隊陸軍々醫
新潟市若杉病院內

●居所不明會員

御存知の諸君は御手数ながら本會へ御一報下され度御願申上候
但し姓名の上に◎印あるは最近に不明となりたる會員諸君なり

舊住所

東京芝養生園
大坂市東區京橋三丁目
長野縣上水内郡長野町
富山縣魚津町
石川縣羽咋郡高濱河崎醫院內
石川縣能美郡小松町字京町
朝鮮京城旭町二丁目
軍醫
豫備工兵第九大隊
兵庫縣神戸病院

戸田伊代治(三)
濱地藤太郎(七)
岡村勝俊(三)
伏田金三(六)
(舊折笠) 竹園圓隆(豐)
平泉泰藏(四)
島豐喜(大元)
福里次吉(全)

園崎純次郎(元)
森岡惣太郎(三)
◎須田嘉三郎(三)
◎前田豐作(全)
◎小林五佐(全)
松村四郎(毛)
富久尾溪(全)
宮崎稻作(全)
西村順八(元)
本城熊三郎(全)

門司市西川端町二丁目
獨乙國ミューン市
高知縣高岡郡須崎古市町
近衛野砲兵聯隊
新潟縣中頸城郡新井町
兵庫縣柏原病院
久留米衛戍病院附
北海道小樽慈惠病院
廣島縣高田郡吉田町
福井縣立病院
札幌北一條四丁目
東京芝神谷町
東京市神田區駿河臺井上眼科病院
東京市芝區田村十九富田三十郎方
篠山歩兵第七十聯隊附軍醫
伊豆國伊東町玖須美
大坂市北區安治川南二丁目政山病院
新潟縣長岡市長岡病院內
新潟縣長岡市長岡病院內
朝鮮駐劄軍司令部附軍醫
三重縣山田市日本赤十字社三重支部山田病院內科
大坂市北區絹笠町同生病院
金澤市弓ノ町九
廣島縣加茂郡中黑瀬村丸山
富山縣石動町石動病院
北海道釧路釧路港得濟病院

戸井源吾(三)
松久祐馬(全)
藤井茂(全)
木下節三(全)
鈴木政治郎(全)
吉武安男(全)
◎内海友七(全)
◎江藤幹(全)
瀧澤武藏(四)
五井康平(全)
楠正之(全)
松本文二(全)
河崎正雄(全)
◎河合勝(全)
◎吉田繁治郎(全)
◎池谷運平(全)
◎池川周次郎(全)
◎藤井最正(四)
◎穂刈光平(全)
◎鈴木琢磨(全)
齊藤祐男(三)
三上儉次(四)
荻野鶴治(全)
◎室田茂人(全)
◎谷口明(全)
◎須藤卯太郎

會 告

●自大正三年二月廿七日校外特別會員會費納付調書
至全 三月廿五日

金額	期 限	氏 名
金參圓	自大正二年度至大正四年度三ヶ年分	中 條 俊 夫君
金參圓	自大正四年度至大正四年度三ヶ年分	長 田 八 三 郎君
金壹圓	自大正二年度至大正二年度分	細 田 榮君
金壹圓	全	諸 橋 嘉 久 次君
金壹圓	全	佐 藤 政 太 郎君
金壹圓	全	野 島 茄 三 郎君
金參圓	自大正二年度至大正二年度三ヶ年分	堂 坂 友 作君
金五圓	自大正二年度至大正六年度五ヶ年分	森 田 齊 次君
金貳圓	自大正二年度至大正六年度二ヶ年分	赤 倉 喜 久 雄君
金參圓	自大正二年度至大正四年度三ヶ年分	柳 瀬 恒 作君
金貳圓	自大正元年度至大正二年度二ヶ年分	伊 藤 善 次君
金參圓	自大正三年度至大正五年度三ヶ年分	小 泉 義 久君
金壹圓	自大正二年度至大正二年度分	松 本 繁 正君
金壹圓	全	篠 尾 明 濟君

金壹圓 大正二年度分
金壹圓 全

以 上

高 桑 勇 次 郎君
天 野 幸 二 郎君

廣 告

本校解剖學教室に助手の空位を生じ候に付き全學研究希望の篤學の會員諸氏は此際奮て金子博士の元へ至急御申出相成度候(月俸參拾圓)

●石川教授へ贈呈記念品釀金受領報告

第三回 (三月廿三日迄) (ニ受領ノ分)

一金壹圓也	矢 吹 清 殿 一金壹圓也	宇 野 正 殿
一金壹圓也	松 田 研 吉 殿 一金壹圓也	太 田 尙 男 殿
一金壹圓也	上 島 耕 治 殿 一金壹圓也	藤 岡 孫 喜 殿
一金壹圓也	山 崎 重 治 殿 一金壹圓也	高 澤 冠 一 殿
一金壹圓也	加 藤 敏 作 殿 一金壹圓也	山 田 外 來 雄 殿

一金壹圓五拾錢也 中谷正範殿 一金壹圓也

一金壹圓五拾錢也 醫學科第四年級 諸君追加五名分 一金貳圓也

一金壹圓五拾錢也 小原德太郎殿 一金壹圓也

一金壹圓也 梶川靜夫殿 一金壹圓也

一金壹圓也 吉田宗一殿 一金壹圓也

一金壹圓也 田中信一殿 一金參圓也

一金壹圓也 吉村一馬殿 一金貳圓也

一金壹圓也 成田成治殿 一金貳圓也

一金壹圓也 岡本晃殿 一金壹圓也

一金壹圓也 今井外吉殿 一金壹圓也

一金壹圓也 村山三男三郎殿 一金壹圓也

一金壹圓也 天野彥次殿 一金壹圓也

一金參圓也 白井濟殿 一金壹圓也

一金壹圓也 千田常外殿 一金貳圓也

一金貳圓也 猪木彥助殿 一金四圓也

一金貳圓也 北川光雄殿 一金壹圓也

一金壹圓也 勝木千尋殿 一金壹圓也

一金壹圓也 田中三彌殿 一金壹圓也

一金壹圓也 濱地藤太郎殿 一金壹圓也

一金壹圓也 春山盛道殿 一金壹圓也

一金壹圓也 柏原直次郎殿 一金壹圓也

一金壹圓也 厲家福殿 一金壹圓也

小野澤庄桂殿

樋口平次殿

奥山義盛殿

近藤清吾殿

高橋重二殿

並河正雄殿

上里良溫殿

古屋榮治殿

池上豐殿

渡邊八之進殿

後藤義賢殿

森義作殿

鈴木於菟吉殿

西勝人殿

田村圓四郎殿

久津木勝作殿

小野醇吉殿

鈴木俊定殿

岡村晉殿

平手秀敏殿

韓清泉殿

錢崇潤殿

計金六拾八圓五拾錢

累計金貳百九拾參圓九拾壹錢

